

業務名：河川技術講習会等運営補助
 特定企業名：一般財団法人北海道河川財団
 住所：札幌市北区北7条西4丁目5-1
 代表者：理事長 水島 徹治
 決定日：令和8年4月27日

評価項目	評価の着目点	判断基準	評価のウエート	一般財団法人北海道河川財団		
業務実績	過去10年間(平成28(2016)年度以降)の類似業務の実績の内容・件数	企業の類似業務の実績は、企画競争参加資格の要件を確認に用いるため、これらを満たさない者の企画提案書の特定は行わない。 類似業務：北海道内における河川に関する講習会または勉強会運営に関する業務	数値化しない	類似1件		
ワーク・ライフ・バランス等の推進に関する指標の適合状況	女性の職業生活における活躍の推進に関する法律に基づく認定等(えるぼし・プラチナえるぼし認定企業、一般事業主行動計画策定企業)	「プラチナえるぼしの認定」、「えるぼし1～3段階目の認定」(いずれの段階においても「評価項目3:労働時間等の働き方」の基準を満たしていることが必要。)を取得している場合及び一般事業主行動計画(計画期間が満了していないものに限る。)を策定・届出(常時雇用する労働者の数が100人以下の企業に限る。)をしている場合に下記の順位で評価する。 ①プラチナえるぼし認定を取得している場合。 ②えるぼし3段階目を取得している場合。 ③えるぼし2段階目を取得している場合。 ④えるぼし1段階目を取得している場合。 ⑤一般事業主行動計画 ⑥上記に該当しない。	①:5 ②:4 ③:3 ④:2 ⑤:1	複数の認定等に該当する場合には、最も配点が高い区分により加点を行う。		
	次世代育成支援対策推進法に基づく認定等(くるみん・プラチナくるみん・トライくるみん認定企業、一般事業主行動計画策定企業)	「くるみん認定」(平成29年3月31日までの基準、平成29年4月1日から令和4年3月31日までの基準又は令和4年4月1日以降の基準)、「プラチナくるみん認定」又は「トライくるみん認定」を取得している場合には優位に評価する。 ①プラチナくるみん認定 ②くるみん認定(R7.4.1以後の基準) ③くるみん認定(R4.4.1～R7.3.31までの基準) ④トライくるみん認定(R4.4.1～R7.3.31) ⑤くるみん認定(H29.4.1～R4.3.31までの基準) ⑥トライくるみん認定(R4.4.1～R7.3.31までの基準) ⑦くるみん認定(H29.3.31までの基準) ⑧一般事業主行動計画(R7.4.1以後に策定又は変更)	①:5 ②:4 ③:3 ④:3 ⑤:3 ⑥:3 ⑦:2 ⑧:1			
	青少年の雇用の促進法に関する法律に基づく認定(ユースエール認定企業)	「ユースエール認定」を取得している場合には優位に評価する。	4			
業務実施体制	業務分担及び業務実施体制の妥当性	業務実施に必要な分担が的確に記載されている場合、優位に評価する。 なお、下記に該当する場合は特定しない。 ①業務分担構成が、不明確又は不自然な場合。 ②再委託の内容が主たる部分の場合、再委託理由が記載されていない場合又は不明確な場合。 ③記載が無い場合。 主たる部分：業務遂行管理、講習会資料等作成統括、講習会及び事例講習会運営補助統括	10	10		
予定管理技術者の経歴等	資格要件	技術者資格	技術者資格、その専門分野の内容	下記の順位で評価する。 ①技術士(総合技術監理部門(建設))、技術士(建設部門)、RC CM、1級土木施工管理技士、土木学会認定土木技術者資格制度における資格を有する者(特別上級土木技術者、上級土木技術者、1級土木技術者) ②①以外	①:10 ②:特定しない	10
予定管理技術者の過去10年間の類似業務の実績	専門技術力	業務執行技術力	過去10年間の類似業務の実績の内容	以下の順位で評価する。 ①平成28年度以降に類似実績の実績がある。 ②①以外	①:10 ②:特定しない	10
		業務理解度		目的、条件、内容の理解度が高い場合に優位に評価する。 ①特記仕様書の内容を反映し、さらに業務背景を踏まえた条件及び内容等の適切な記載がある場合。 ②特記仕様書の内容が反映されている場合。 ③特記仕様書の内容を反映されていない、又は異なる内容となっている場合。	①:10 ②:5 ③:0	5

実施方針・ 実施フロー・ 工程表・その他	実施手順	<p>業務実施手順を示す実施フローの妥当性が高い場合に優位に評価する。</p> <p>①項目が網羅され、実施手順が妥当であり、かつ、フィードバックが適切に設定されている場合。</p> <p>②項目が網羅され、実施手順が妥当である場合。</p> <p>③項目に漏れがある、記載ミスがある、または実施手順が不適切な場合など。</p>	<p>①: 10</p> <p>②: 5</p> <p>③: 0</p>	5
		<p>業務量の把握状況を示す工程計画の妥当性が高い場合に優位に評価する。</p> <p>①項目が網羅され、実施工程が妥当であり、かつ、フィードバックが適切に設定されている場合。</p> <p>②項目が網羅され、実施工程が妥当である場合(パーチャートのみ)。</p> <p>③項目に漏れがある、記載ミスがある、または実施工程が不適切な場合など。</p>	<p>①: 10</p> <p>②: 5</p> <p>③: 0</p>	5
	その他	<p>有益な代替案及び重要事項の指摘がある場合に優位に評価する。</p> <p>①有益な代替案若しくは重要事項の指摘が2つある。</p> <p>②有益な代替案若しくは重要事項の指摘が1つある。</p> <p>③上記以外</p>	<p>①: 10</p> <p>②: 5</p> <p>③: 0</p>	5
特定テーマ に対する 企画提案	的確性	<p>前提条件が的確に網羅されている場合に優位に評価する。</p> <p>・的確な項目に関する事項 (基礎知識、現場経験、設計・施工、技術の伝承、その他)</p> <p>①4つ以上記載されている。</p> <p>②2~3つ記載されている。</p> <p>③1つ記載されている又は記載されていない。</p>	<p>①: 5</p> <p>②: 2</p> <p>③: 0</p>	5
		<p>着目点、課題と解決法が適切に整理されており、業務遂行するにあたり有効性が高い場合に優位に評価する。</p> <p>①適切かつ論理的に整理されており、本業務を遂行するにあたって有効性が高い場合。</p> <p>②①及び③に該当しない。</p> <p>③記載が無い。</p>	<p>①: 5</p> <p>②: 2</p> <p>③: 0</p>	2
	実現性	<p>提案内容に具体的な記述があり、説得力がある場合に優位に評価する。</p> <p>①主たる目的にあった提案で具体的な記述があり、実現性が高い場合。</p> <p>②①及び③に該当しない。</p> <p>③記載が無い。</p>	<p>①: 20</p> <p>②: 10</p> <p>③: 0</p>	10
		<p>提案内容を裏付ける業務実績、類似実績等の内容が明示されている場合に優位に評価する。</p> <p>①主たる目的にあった業務実績、類似実績等が明示されている。</p> <p>②①及び③に該当しない。</p> <p>③記載無し又は実績が確認出来ない場合。</p>	<p>①: 10</p> <p>②: 5</p> <p>③: 0</p>	10
参考 見積	業務コストの妥当性	本業務の業務規模は、1,800万円(税込)以内とする。	数値化しない	○
合計評価点			115	77